

W28c

すざく衛星搭載 X 線 CCD (XIS) の現状報告

松本 浩典、中嶋 大、山口 弘悦、兵藤 義明、森 英之、鶴 剛、小山 勝二 (京大理)、田和 憲明、勝田 哲、穴吹 直久、鳥居 研一、林田 清、常深 博 (阪大理)、村上 弘志、尾崎 正伸、堂谷 忠靖 (ISAS/JAXA)、Eric D. Miller、Beverly LaMarr、Mark Bautz (MIT)、辻本 匡弘、北本 俊二 (立教大)、幸村 孝由 (工学院大)、馬場 彩、千田 篤史、平賀 純子 (理研)、前野 将太、森 浩二 (宮崎大)、他すざくチーム

X 線天文衛星「すざく」には表面照射型 CCD 3 台と裏面照射型 CCD 1 台が搭載されており、合わせて XIS (X-ray Imaging Spectrometer) と呼ばれる。打ち上げ後約 1 年半を経過し、放射線ダメージや付着物の影響により、エネルギー分解能や低エネルギー側での検出効率に変化が見られる。また、劣化したエネルギー分解能の回復を目指し、2006 年 10 月より Spaced-row Charge Injection 法を世界で初めて使用して、実際に成果をあげている。本講演では XIS の現状について報告する。